

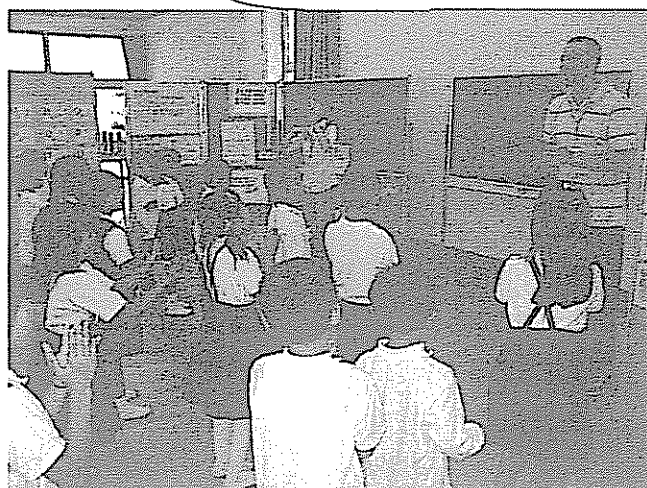
ワークショップ

コミュニケーション力をつける英語活動を目指して

~Good communicators を育てよう~

楽しく歌って、踊ろう！
Let's sing and dance!

小学校英語活動
地域サポート事業
【福山市神辺町】

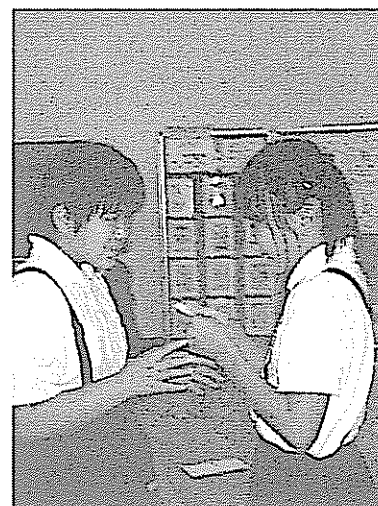


AET と HRT, そして仲間と生き
生きと活動できる主活動。
Let's play a Game!

積極的にコミュニケーションを図る
子どもを育てよう。
3つの子ども像 (自己決定・個の確立・共生)

日時 12 : 45 ~ 13 : 15

場所 教育学部講義室 L棟206



事業名：	小学校英語活動地域サポート事業
学校名：	神辺小・竹尋小・御野小・湯田小・中条小・道上小
所在地：	福山市神辺町

1 研究の概要

(1) 研究テーマ

英語活動によるコミュニケーション能力の育成
～「聞く態度」「自ら進んで発信する態度」を育てる～

(2) 研究内容

- ①各小学校にAETを配置。HRTとAETのチームティーチングにより、全学年各学級最低1時間もしくは、それに相当するモジュールにおいて英語活動を実施。
- ②英語活動専用の教室を設置。教室内では英語でのコミュニケーションを重視し、異文化交流を通して英語に慣れ親しませる。
- ③各小学校において、休憩時間等に英語放送を毎日実施することで、児童は英語に触れる機会を増やし、自然と耳から英語に親しませる。
- ④英語活動研究委員会の組織の拡大、研究内容（カリキュラムの作成、指導方法、教材の開発、授業研究等）の充実を図り、福山市に実践を広げる。
- ⑤各校へ講師を招へいし、英語活動の充実を図る。
- ⑥先進地視察、校内研修の充実等により、教職員の資質の向上を目指す。

2 実践事例

(1) 第1学年 英語活動

(2) 単元の紹介

①単元名「家族」

②単元の目標

自分の大好きな家族のことをAETに紹介する。

③本時の評価規準

【1-②】【2-②】・【英語活動の評価規準】より

④単元の展開（指導計画）

○日直による英語のあいさつ

○歌とチャンツ

(Hello Song, Five Little Monkeys, オリジナル家族チャンツ)

○絵本 (Peanut Butter and Jelly)

・絵本の中に出てくる家族の名前を言う

○カード当てゲーム「なくなったカードは何？」

・“Close your eyes”で、8枚の家族カードのうち1枚を隠す。

・“1. 2. 3. Open your eyes”で、何のカードを隠したか当てる。

○かるたゲーム

・8種類×3枚のカードを床に並べる。

・2チームに分かれて、AETが言った家族カードを取りに行く。

・児童はカードをAETに渡す。渡すとき次のフレーズを必ず言って渡す。“Hi, OOsensei!

This is my mommy. Thank you. Bye!

Here you are.”)

(3) 授業改善のポイント

①指導方法の工夫

- ・HRTが授業のプロデューサーとなり、AETとチームティーチングで授業を行う。
- ・授業の中で、児童がAETと関わる場面を必ず仕組む。
- ・意味のある変化に富んだくり返して楽しく英語に慣れ親しむようにする。

②教材の工夫

- ・本時の目標を達成するための歌やチャンツ、絵本、ゲームなどの教材を開発作成している。

③評価の工夫

- ・本年度より「本時の目標」「評価の観点」「評価規準」を指導案に明記し、子どもの変容を見取る。
- ・「AETと臆することなくコミュニケーションを図っている」など、スキルではなく、コミュニケーションを重視して評価する。

【英語活動の評価規準】（英語活動研究会で作成）

	評価の観点	評価規準
1	積極的にコミュニケーションを図る	①AET、先生、友だちとコミュニケーションを楽しんでいる。 ②進んで英語活動に参加している。 ③相手の目を見てコミュニケーションを図ろうとしている。
2	コミュニケーション力をつける	①相手が伝えようとしていることを理解し、反応している。 ②自分の気持ちや考えを表現している。 ③英語特有の表現やコミュニケーションの仕方を身に付けている。
3	日本や外国の生活・文化に対して興味を持つ	①外国の生活、習慣、文化、言葉に興味を持っている。 ②外国と日本の生活、習慣、文化、言葉の違いを理解している。 ③外国の人に日本の文化等を発信している。

(4) 授業の様子（児童の変化）

- ・休憩時間に英語の校内放送と一緒に歌ったり、“Peanut Butter Peanut Butter Jelly”など絵本のフレーズをロズさんだりするなど、児童が自然に英語に慣れ親しんでいる。
- ・Let me try!と言って自分から進んで活動する児童が増えた。
- ・英語活動のはじめの挨拶を、日直が行っているため、簡単な挨拶や自己紹介が自然にできる児童が増えた。
- ・多くの児童が英語活動に楽しく参加しており、もっと英語を勉強したいと感じている。

(5) 成果と課題

- ・英語活動指導案に評価規準を明記することで、本時の目標を達成するためにどんな授業の組み方をするか、より一層工夫して考えることができたようになった。
- ・研修を通して、コミュニケーション力をつけるための活動についていろいろなアイデアを出せるようになった。
- ・HRTとAETの連携と授業の中で、AETの活用の仕方が課題である。